

は し が き

令和4年度は、新型コロナウイルスの新規陽性者数が8月に全国で1日当たり過去最高の26万人を記録し、県内においても新規陽性者数が同じく過去最高の2千人を超える日もあるなどウイルスが猛威を振るいました。また、8月には県北部を中心に記録的な大雨に見舞われ、多くの家屋が浸水被害を受けたほか、道路や河川、農作物などにも大きな被害をもたらすなど県民に多くの困難を強いる年でした。

その一方で、9月には県と秋田市が連携して整備した新文化施設「あきた芸術劇場ミルハス」が県民会館跡地にグランドオープンし、多くの来場者で賑わいを見せたほか、10月には米どころ秋田の待望の新品種「サキホコレ」が本格デビューし、スーパーなどで買い求める人が列をなすなどコロナや災害に見舞われながらも、久し振りに明るい話題が多い年でもありました。

さて、令和4年度の我が国経済は、物価高の影響を受けながらもコロナ禍から経済社会活動の正常化が進み、好調な企業収益の下で設備投資が高水準で推移し、水際対策の緩和によりインバウンド需要が内需・外需共に持ち直しの動きも見られるなど、景気は緩やかに持ち直しました。

個人消費は、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、ウィズコロナの下で全国旅行支援の効果もあり宿泊や外食などの対面サービスを中心に消費が増加したほか、自動車販売においても供給制約等の改善が年度後半に見られるなどにより、前年を上回りました。

企業業績は、製造業は半導体不足という状況下において、供給能力向上に向けた設備需要の高まりにより半導体製造装置等の生産用機械の生産・輸出が増加し、円安によってさらに利益が押し上げられるなどにより増益となったほか、非製造業でもウィズコロナの下での旅行・外食の再開に伴い卸売・小売・宿泊業等では増益になるなど、企業収益に力強さが見られました。

県内経済は、一部に弱さが見られたものの、景気は全体として持ち直しました。秋田県の各種支援事業効果等により個人消費に回復の動きが見られたほか、半導体不足の影響が弱まり納車遅延が解消に向かうなど乗用車の販売が前年を上回りました。製造業は、車載向け電子部品の生産は底堅く推移しましたが、中国市場の低迷によりPC・スマートフォン向けの生産が減少するなど回復に一服感が見られました。この間の雇用面は、新規求人数は前年を下回る月が多かったものの、有効求人倍率は高水準で推移しました。

こうした中で、令和4年度の県税収入は、前年度比で2億8,642万円増の999億2,020万円となり3年連続で前年度を上回りました。その主な要因は、コロナ禍からの業績回復に伴う法人事業税の増収や軽減税率廃止に伴う自動車税環境性能割の増収によるもので、この結果、8年連続で900億円台の税収を確保することができました。

この統計書は、令和4年度の県税決算を中心に、県税の概要と関係資料を収録したものです。本書を通じて本県における税の現状への御理解を深めていただければ幸いです。

令和5年12月

秋田県総務部税務課長 野田 新悦